

軽水炉安全技術・人材ロードマップのローリングの論点

平成28年11月

軽水炉安全技術・人材ロードマップのローリングの進め方に関して、策定時及び本年6月に開催した第10回ワーキンググループにおける委員各位からの御指摘等を踏まえ、主に以下の各論点について、委員各位から御意見をいただきたい。

（今年度のローリングの実施手法について）

1. 平成27年6月の策定時から現在までの間に生じた原子力を取り巻く環境の変化や、国内外における研究開発、人材育成の取組の進捗について、日本原子力学会が行うローリング作業において、適切に捉えられているか。（日本原子力学会からの中間報告資料では、「重要度評価に当たって考慮すべき事項」に反映されている。）
2. 軽水炉安全に係る研究開発や人材育成に携わる各主体が、いずれもローリングのプロセスに関与できているか。
3. ローリングを今後も継続的に進めていく観点から、実効性ある形で進められているか。例えば、達成度評価について、方法・頻度は適切か。

（ロードマップの仕組みの継続的な改善について）

4. 各関係主体が、軽水炉安全技術・人材ロードマップを尊重して行動しているか。各要素課題に関して、資金を負担する担当、技術開発や人材育成に取り組む担当について、適切な役割分担が図られているか。
5. 各要素課題の重要度を評価する際に用いる「評価軸」について、その内容は適切なものに改善されているか。特に「費用対効果」をめぐる考え方について、実施費用と研究開発費用の考え方を区別する、リスク低減効果を的確に捉えるなど、適切な見直しが図られているか。
6. 他学会の視点、国内外からの意見等を的確に取り込んで軽水炉安全技術・人材ロードマップを見直しているか。

（内容の充実化が期待される分野について）

7. 軽水炉安全技術・人材ロードマップの中で、人材育成について、必要な改善、充実がなされているか。
8. 廃炉、セキュリティといった分野についても適切に重要度評価がなされるように仕組みが改善されているか。